

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007 年度 ～ 2010 年度

課題番号：19730110

研究課題名 (和文) 初期近代ブリテンにおける「統合」と「帝国」の政治思想史

研究課題名 (英文) Visions of Union and Empire in the Early Modern Britain

研究代表者 木村 俊道 (KIMURA TOSHIMICHI)

九州大学大学院法学研究院・准教授

研究者番号：80305408

研究代表者の専門分野：西洋政治思想史

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：ブリテン 統合、帝国、文明、人文主義

1. 研究計画の概要

本研究は、初期近代ブリテンを対象として、同時代における「統合」と「帝国」の政治思想史を明らかにする試みである。

この研究の目的は、具体的に、1603 年の「王冠の統合」や 1707 年の「政治統合」を基点とするイングランド・スコットランド統合問題や、1776 年のアメリカの独立に焦点をあてながら、初期近代における「ブリテン帝国」British Empire の設立・維持・拡大の過程を思想的な観点から考察することにある。

2. 研究の進捗状況

本研究では、研究対象となる時代に応じて、作業の段階を 3 つのフェイズに区分している。すなわち、フェイズ①：1603 年の「王冠の統合」以前、フェイズ②：1603 年から 1707 年の「政治統合」まで、フェイズ③：1707 年から 1776 年のアメリカ独立まで、である。平成 21 年度では、フェイズ③まで作業が進んでいる。

これまでの作業においては、マキアヴェッリの拡大国家論を一つの原型とする人文主義的な「帝国」論が、たとえばベイコンやハリントンを通じて、初期近代のブリテンにおいて受容されていたことや、1603 年や 1707 年のスコットランド統合問題をめぐる論争に与えた影響が明らかになった。

また、ハクルートの『航海記』、ジョン・ロックのアメリカ植民地論、ファーガソンの統合批判論、ヒュームの帝国批判、パークのアメリカ論などを通じて、帝国や征服、あるいは文明と野蛮をめぐる同時代の言説の諸相を分析した。

以上の文献や資料については、国内および海外の図書館や、マイクロフィルム (Early English I, Early English II, Eighteenth Century) を通じて収集が進められている。さらに、近年刊行されたばかりの、『アメリカ革命に関するブリテンのパンフレット集』全 8 巻 *British Pamphlets on the American Revolution, 1763-1785, 8 vols., (ed.), H. T. Dickinson (Pickering & Chatto, 2010)* や、『アメリカ植民地とブリテン帝国』全 8 巻 *The American Colonies and the British Empire, 8 vols., (ed.), Steven Sarson (Pickering & Chatto, 2010)* などの資料集を入手することができた。

このようにして、1603 年の「王冠の統合」を 1 つの基点とし、アメリカの独立に至る、初期近代における「ブリテン帝国」の思想史が明らかになりつつある。同時にまた、初期近代ブリテン史を、「内乱」や「名誉革命」だけでなく、「多元的」「複合的」国家の再編と統合が最重要の政治課題となった時代として理解する重要な手掛かりが得られた。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。文献資料の収集は順調に進んでいるが、とくに近年刊行された資料集の分量が予想以上に多く、その分析は必ずしも順調に進んではいない。しかし、その一方で、これまでの成果の一部は、2008 年と 2010 年に出版した図書のなかに反映された。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、引き続き内外での文献収集を進めるとともに、以上の作業をまとめる過程に入る。また、初期近代ブリテンにおける帝国論の特徴をより明確に理解するため、同時代フ

ランスの「普遍的君主政国家論」 Universal Monarchy 論やモンテスキューの連邦論、アメリカのフェデラリスト、あるいは 19 世紀以降の「大英帝国」論等との比較を行う。

以上の作業を踏まえ、今年度は、初期近代ヨーロッパにおける「統合」や「帝国」の政治思想が、「多元的」「複合的」国家としての「ブリテン」の世界認識やアイデンティティの形成に与えた影響を解明し、とくに「文明」と「政治」の観点から、その思想史的な意義を明らかにする。

なお、研究代表者は、2011 年に刊行予定の古賀敬太編『政治概念の歴史的展開』第 4 巻の「帝国」の章を執筆する予定であり、本研究の成果の一部がそこに反映される予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計 2 件)

① 木村俊道、ミネルヴァ書房『文明の作法—初期近代イングランドにおける政治と社交』2010 年、x+273+50 頁

② 岡崎晴輝・木村俊道編、ミネルヴァ書房『はじめて学ぶ政治学』2008 年、325 頁(木村「統治—マキアヴェッリ『君主論』」276-86 頁)。

〔その他〕

① 2007 年度(第 14 回)政治思想学会(於明治学院大学) 研究会 2「主権国家と帝国」
討論者